(様式2)　令和７年度　学校評価の４点セット整理票　**３学期版**

日田市立　高瀬小　学校　　令和8年　3月　4日

検証・改善フローシート　月ごとのや学期途中での検証・改善に繰り返し使用できます。

確認・検証・改善【　8　回目】　　3月　4日(水)実施

【学校の教育目標】	よりよい答えを求めて、ともに学び続ける高瀬っ子を育てる
【育成を目指す資質・能力】	他者と協力する力

（評価　4：100%以上　3：80%以上100%未満　2：60%以上80%未満　1：60%未満　※%は達成率）

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	資質・能力との関連 知識・技能	思考力・表現力・判断力	学びに向かう力・人間性等の涵養	担当	取組指標に対する 取組状況の確認 取組状況（エビデンス）	実施率	達成指標に対する 達成状況の確認 達成状況（エビデンス）	達成率	達成指標・取組指標の妥当性を 検証	評価 期間別	評価 全体	改善方法	学校関係者評価（3月5日） 考察	評価
気持ちや考えを尊重し合う	○ 児童質問紙「学校が好き」80%以上(新規) ○ 児童質問紙「誰とでも協力できた」80%以上(新規) 児童質問紙「自分にはよいところがある」80%以上(新規)	学校	○ みえるにこにこ☆プロジェクト	○ 担任はリフレクションに力点を置いて「スマイルタイム」を実施（毎週木曜日朝会）		○	○	豊かな心部	計画的に実施できた。	100	○児童質問紙「学校が好き」84%	105	「スマイルタイム」は子どもたちも毎週楽しみにしており、人間関係づくりに有効であった。	4		活動後のリフレクションにおいて、「相手はどのように感じていたか」など、立場を変えて考える視点を取り入れる。	児童たちの表情が明るく、学校生活を前向きに送っている様子が見られる。 親子読書については、家庭と学校をつなぐ活動として意義があり、今後も継続していることが望ましい。	4
			○ 特活部は縦割りチームでの児童会集会活動や遊び、清掃を実施（別紙計画表）		○	○	○		チーム遊びで、縦割り清掃（新編成）を計画的にできた。	100	○児童質問紙「誰とでも協力できた」92%	115	チーム遊びでは、遊びの計画から当日の実施まで6年生を中心に協力して進める姿が見られ、「協同」を育てる取組として有効であった。	4		縦割り班の活動は継続し、異学年の関わりの中で相手の気持ちを想像したり、互いの考えを尊重したりする場面を意識的に設定する。		
			○ みえるこころ☆プロジェクト	○ 人権部は「笑顔の花」「ハッピー郵便」人権集会を実施		○	○		笑顔の花、ハッピー郵便、人権集会を実施できた。	100	○児童質問紙「自分にはよいところがある」86%	107.5	6年生に「ありがとう」を伝える「ハッピー郵便」の取組では、異学年の交流が生まれ、互いのよさに気づく機会となったことが、自己肯定感を高める一つの手立てになったと考えられる。	4	4	人権集会は他者の視点に力点を置く、「笑顔の花」と「ハッピー郵便」を統合し、特定の友だちに偏ることなく、さまざまな友だちのよさに目を向けることができるようにする。		
		家庭	○ みえるこころ☆プロジェクト×家庭	○ 親子読書を実施		○	○	育友会	計画的に実施できた。	100			家族ふれあいデーの設定により、家族で会話する時間を確保することができ、家庭との連携による心の育成につながった。	4		来年度も継続		
		地域	○ みえるこころ☆プロジェクト×地域	○ まるたんぼの会は、本の読み聞かせを実施		○	○	ＣＳ	計画的に実施できた。	100			物語を通して登場人物の気持ちを想像する機会となり、児童たちの心を育てる活動になった。	4		来年度も継続		
対話により思考を深め合う	○ 国語科単元テスト「知識・技能」81%以上(R6 81.3%) 「思考・判断・表現」82.5%以上(R682.5%) ○ 児童質問紙「国語が好き」73%以上(R6 73%) ○ 児童質問紙「対話によって自分の考えを深められた」71%以上(R6 71.5%)	学校	○ みえる学び☆プロジェクト	○ 担任は国語科で「見通しと手立て」「対話」「スタディログ」の観点でＩＣＴを活用（毎単元）		○	○	確かな学力部	計画的に実施できた。教職員アンケート『担任は国語科で「見通しと手立て」「対話」「スタディログ」の観点でＩＣＴを活用（毎単元）』100%	100	○国語科単元テスト「知識・技能」77.3% 国語科単元テスト「思考・判断・表現」　82.0%	97.4	各担任がＩＣＴを活用した授業づくりを進めたことにより、児童が学習の見通しを持ちながら学習に取り組む姿が見られ、国語科単元テストは概ね達成することができた。	4		「スタディログ」の活用事例を還流していく。ロイロノートの共有ノートやタイムラインなどを使い、好事例の資料を共有する。	授業参観を通して、児童たちが落ち着いて学習に向かう姿が見られ、学習に向かう姿勢が向上している。 学力の分析についても丁寧に行われている。 家庭学習の習慣づくりについては、家庭の考え方や状況によって受け止め方が異なるため、学校から家庭への働きかけの方法については配慮が必要ではないか。	4
				○ 担任はＡＩドリルを実施（毎日）	○				計画的に実施できた ※３年生以上 担任はＡＩドリルを実施（毎日）100%	100	○児童質問紙「国語が好き」70.2%	96.2	児童質問紙「国語が好き」についても、概ね目標を達成し、他教科と比較しても肯定的な回答が増えており、言語活動の工夫や個別の指導計画の改善など、各担任の授業改善の取組が児童の学習意欲の向上につながっている。	3		「思考・判断・表現」の力がつく好事例や、AIドリルの活用の仕方などの還流の場を設ける。		
		家庭	○ みえる学び☆プロジェクト×家庭	○ 保護者は「ぱっちりプリント」の見取りとサインをする（毎週末）	○		○	育友会	計画的に実施できた。 保護者ｱﾝｹｰﾄ結果　82%		○児童質問紙「対話によって自分の考えを深めることができた」80.9%	113.9	6年部の肯定的回答率は94.4%。対話の場面を意図的に設定することで、児童が自分の考えを整理し、他者の考えと比較しながら思考を深める姿が見られた。	4	4	実践交流の場を設け、各教科の愛好度を高める手立てを検討していく。		
		地域	○ みえる学び☆プロジェクト×地域	○ 育友会は総合的な学習の時間やクラブ活動、裁縫実習等で学習支援をする	○		○	ＣＳ	卒業記念植樹、山林礪間の方を招いての森林授業を実施				地域の学習支援により、児童の学びに向かう姿が向上した。	4		「対話」の質を高めるには、根拠をもとに考えさせることで思考の深化をめざす。		
運動や健康づくりを通して関わりを築く	○ 児童質問紙「運動が好き」90%以上(R6 92.7%) ○ 児童質問紙「自分から安全な行動ができた」88%以上(R6 88.6%)	学校	○ みえる学び☆プロジェクト＠体育	○ 体育授業者は準備運動でＡＣＰの実施とスタディログを活用した授業を実施（毎単元）		○	○	健やかな体部	計画的に実施できた。	100	○児童質問紙「運動が好き」91%	101	体育授業の導入でACPを実施することで、児童が意欲的に活動に入りやすくなった。また、スタディログを活用することで、「運動が好き」と感じる児童の割合の向上につながった	4		ACPを活用した体育授業や体育遊び集会など、運動に親しむ取組は今後も継続していく。	運動が好きな児童の割合や安全に行動する意識が高い。 持久走大会の開催方法について、学校と家庭が協議しながら改善を図ったことはよかった。来年度も育友会として協力したい。 鼓笛パレードや避難訓練の実施方法についても、学校がまとめた改善策に沿って進めてほしい。	4
			○ みえるつながり☆プロジェクト	○ 体育部は体育遊び集会を実施する		○	○		３学期始まって感染症が拡大し、委員会活動を円滑に行うことが難しかった。		○児童質問紙「自分から安全な行動ができる」93%		体育遊び集会の実施は、日常生活の中で体を動かす楽しさを感じる機会となった。 保健委員会による二酸化炭素濃度の測定は、教室の換気を意識するきっかけとなり、健康で安全な生活環境づくりにつながった。さらに、地域の防災士を招いた避難訓練の実施により、防災意識を高めた。	4	4	安全に関する学習では、教師に指示に従うだけでなく、状況に応じて自分で安全な行動を判断できるような場面を設定する。 防災教育や健康教育の取組を通して、自分の命や安全を守る行動について主体的に考える機会を設けていく。		
		家庭	○ みえるけんこう☆プロジェクト×家庭	○ 保健部は家庭と協働で「さわやかデー」と「元気ちょきん」を実施する。	○	○	○	育友会	計画的に実施できた	100			家庭の協力を依頼することで、学校と共に親子で健康な生活について考えることができた。					
		地域	○ みえるつながり☆プロジェクト×地域	○ クラブ活動（グランドゴルフ・卓球）	○		○	ＣＳ	計画的に実施できた。	100			地域の方をクラブ活動の講師として迎えたことにより、児童が体育で経験する運動以外のスポーツにも関心を高めた。	4		来年度も実施		
【働き方改革の推進】	○ 年間授業時数の超過50単位時間以下	学校等	○ 教科横断的な視点による効率的・効果的な教育活動の実施	○ 単元配列表による進捗状況の確認（毎月）及び支援の実施				教務	毎月の月末整理日に合わせ、単元配列表をもとに進捗状況のチェックを行った。	100	年間超過時数 1年（+50）2年（+38）3年（+15） 4年（+22）5年（+19）6年（+ 9）		授業時数および学習進度の進捗状況を見ながら、月時程を計画し、目標を達成した。	4		来年度も実施。低学年の時数超過については、短期間で調整を行っていく。	教職員の負担軽減について配慮することが重要である。 年間の授業時数が大きく超過することのないよう、年度当初から計画的に下校時刻を設定するなど、学校全体で見通しをもって教育活動を進めることが大切である。	4
			○ 生活科及び総合的な学習の時間の支援	○ 育友会等は生活科及び総合的な学習の時間の学習支援を実施（別紙計画表）				育友会	３学期も森林学習や記念植樹、椎茸の駒打ち体験など、準備やゲストティーチャーとしての役割を果たした。	100			地域・保護者の方々の協力により充実した活動ができた。	4	4	来年度も継続。		
			○ 登下校の見守り	○ 「杉の子パトロール隊」は登下校の児童の見守りを実施（毎日）				ＣＳ	毎日実施できた。	100			不審者情報に対し、パトロール隊と連携して見守りを強化できたことは、教職員の負担軽減に寄与した。	4		来年度も実施。		